



笠形木製品の保存処理



▲処理前の水漬け展示（歴史民俗博物館・平成29年）

栗東市安養寺に所在する椿山古墳は、古墳時代中期（5世紀）では滋賀県最大の古墳として知られています。墳丘の全長は99m。その周りに幅15～16mの周濠がめぐらされています。平成28年度には、周濠の一部で発掘調査が行われ、全国最大級の笠形木製品が出土しました。

笠形木製品は「木製埴輪」とも呼ばれているもので、貴人の日傘を模したものとされています。全部で6点出土し、いずれもコウヤマキという木材を使用していました。平面形は楕円形で、全国最大級のもは2点あり、長径が75cmを超えます。全国で最大のもは、こんだびやうやま 菅田御廟山古墳（大阪府堺市・応神陵古墳）出土のものです。

笠形木製品は千数百年もの間、周濠の粘土にパックされた状態でその形を維持してきました。しかし発掘調査で発見され空気中に出されると、乾燥が進み変形してしまいます。そのため、こうした木製品は水漬け保管しますが、その状態では展示公開が困難な上、腐食してしまうことがあります。このため、平成30年から令和元年まで、薬品を使った保存処理が実施されました。

木製品の保存処理にはいろいろな方法がありますが、この笠形木製品の場合大型であること、針葉樹材であることから、真空凍結乾燥法により処理されました。食品のフリーズドライと同じ方法です。この方法で処理を行うと遺物が比較的軽量に仕上がります。

奈良県の研究所に運ばれた笠形木製品は、写真撮影やクリーニングを経て、強化のために薄い樹脂に含浸されました。含浸後は、紙で保護され、真空凍結乾燥機に配置されます。庫内ではまずマイナス40度で予備凍結され、その後真空の状態で行くくりと乾燥されました。大型の木製品であるため、乾燥には半年以上かかりました。乾燥後には、接着や彩色を経て処理が完成し、栗東に帰ってきました。

現在、栗東歴史民俗博物館で開催している「埋蔵文化財発掘調査成果展」では、椿山古墳から見つかったすべての笠形木製品を公開しています。処理後の笠形木製品を展覧会として公開するのは初めてです。笠形木製品が古墳に並べられていた光景を想像してみてください。



▲処理後の展示可能な状態

▲真空凍結乾燥機で処理
（元興寺文化財研究所・奈良県生駒市）

▲薄めの樹脂に含浸

会場 栗東歴史民俗博物館
会期 7月21日(日)
※展覧会詳細はお知らせ版8
頁に掲載

岡出土文化財センター TEL553-3359 FAX 553-3514